

# ゆらゆらと、・・・〇〇物語

—「A表現（工作）」—

～物語の場面を想像しながら、揺れる仕組みを生かしたゆらゆら動くおもちゃをつくらう～

広島市立東野小学校 鳥羽 千鶴

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:40 5年2組教室

2 学年・組 第5学年2組（男子16名 女子14名 計30名）

## 3 題材について

- 本学級の児童は、自分の思いをもって最後まで意欲的に造形活動に取り組む児童が多い。しかし、やりたいことの具体的なイメージが浮かばず、発想するまでに時間がかかってしまい、なかなか活動に入れない児童がいる。また、友だちの発想を真似したり、色々構想を変えたりしていく中で、自分が何を表現したいのか、何をしようとしているのかという本来の目的から離れてしまう児童もいる。表現したいことが明確であっても、それを表現する過程で思い通りに活動が進まずに技能面で困っている児童もいる。鑑賞に関しては、活動の途中で友だちの作品のよさを見付けたり、できあがった作品を褒めたり、自分の作品への思いを友だちに伝えたりと、互いの作品の良さを認め合い、自他の作品を大切にしようとする児童が多い。
- 本題材は、古くから伝わる郷土玩具の一つであり、底におもりを付け、倒れてもすぐに起き上がるようにした揺れる仕組みを生かして動くおもちゃをつくる題材である。児童の実態をふまえ、つくっておしまいではなく、つくったあとに遊ぶ目的があるという見通しや楽しみをもたせることができることや、工夫を重ねること、ていねいさが求められることから本題材を考えた。この題材の面白さは、まず、倒しても倒しても起きあがってくる楽しさにある。また、色々な大きさの筒を用意することで、組み合わせたり、面白い動きを発見したりしながら、表現の意図を明確にして、一人一人の感性を働かせることで、揺れる動きから自分の思い描いたイメージを豊かに構想し、形や色、構成、表現方法など多様な活動が展開されると考えた。
- 指導に当たっては、揺れる仕組みの例をいくつか提示することで、動きの面白さや楽しさ、こんな動きがあるんだという感動的な出会いをさせ表現活動への意欲を高めたい。また、自分の感じ取った発想を大切にしながら、自由に動きを変えたり、組み合わせたり、アイデアスケッチをかかせたりして思いのまま活動できるようにする。できあがった作品で、「来年度入学する園児を迎え入れる交流会で一緒に遊ぼう」と提案することで、児童が相手意識をもって、意欲的に造形活動ができる。活動が進みにくい児童に対しては、試作の時間を十分確保したり、試作を動かしたり、対話したりして、より具体的に自分の表現したいものをイメージすることにつなげていきたい。そして、自分の意志で遊べるものをつくり出す喜びを実感できるよう配慮する。また、紙と筒の接着の仕方や、筒に対しての重りのつけ方などを確認しながら活動に入るように支援する。創造的な技能を高める手立てとする。鑑賞では、自分の作品への思いを物語に表し、互いの作品で遊び面白い動きを発見するなかで、友だちの工夫を発見できるようにする。

## 4 題材の目標

- 揺れる仕組みの面白さに気づき、揺れる仕組みを生かしながら、自分なりの表現方法で工夫してつくる。

## 5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	揺れる仕組みを基に、動くものをつくること楽しもうとしている。	揺れる動きの面白さから表現したいことを見付けたり、つくる順序を考えたりしている。	自分の表現したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法を選ぶなど表し方を工夫している。	自他の作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などをとらえている。

## 6 指導と評価の計画 (全6 時間)

時間	学習活動	学習活動における具体の評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一 次 (1 本時 時間)	・揺れる仕組みを知り、材料とかかわり合いながら構想を練る。	イ (アイデアスケッチ)	・揺れる動きの面白さから <u>形や色、構成、表現方法など</u> を見付けたり、つくる順序を考えたりしている。	・自分のつくりたいもののイメージやテーマを聞き、より具体的になるよう対話しながら構想が広がるように支援する。 ・友だちの表現方法や材料の使い方を交流する場を設ける。
第二 次 (4 時間)	・自分の思いに合わせて表現活動を行う。	ア (行動観察) (途中作品) ウ (行動観察) (途中作品)	・揺れる仕組みを基に、 <u>様々な方法を試みながら、進んで</u> 楽しもうとしている。 ・自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして <u>効果的に</u> 使ったり <u>組み合わせたり</u> し、表現に適した方法を選ぶなど工夫して表している。	・友だちの表現方法や試みを紹介する場を設ける。 ・材料の選択や表現方法で困っている児童に、対話をしながら支援をする。
第三 次 (1 時間)	・物語をつくり、友だちに作品とともに紹介する。つくった作品で遊びながら、鑑賞する。	エ (ワークシート) (発言)	・自他の作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、 <u>友だちの思いに共感しながら</u> 表現の意図や特徴などをとらえている。	・好きな作品を選ばせて、具体的にどこが好きなのか対話しながら聞き出す。

### 7 本時の目標

揺れる動きの面白さから表したいことを見つけたり、構想を考えたりする。

### 8 準備物

(指導者) ワークシート、円柱の筒、試作品(参考作品)、必要な材料(画用紙、竹籤、乾電池など)  
(児童) 筆記用具、パステック 折り紙

### 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 本時の学習内容をつかむ。	○来年度入学してくる園児と楽しく一緒に遊べるものをつくり、園児を喜ばせようという意欲を高める。 ○参考作品を見せ、作品の揺れる動きの紹介をする。	ア 行動観察
めあて ゆれる仕組みを使って、動くおもちゃを考えよう。		
2 自分の思いを大切にしながら、ワークシートに自分のイメージを書き表す。	○実際に材料に触れながら具体的にイメージさせるようにする。 ★なかなか構想の浮かばない児童に対しては、児童のつぶやきや直接対話やグループ交流から児童の発想を引き出す。	イ アイデアスケッチ
3 必要な材料を考え、作業に取りかかる。		
4 学習のまとめをする。		
5 次時の学習課題の知る。		

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 10:10～10:55 5年1組教室

2 学年・組 第5学年1組（男子16名 女子15名 計31名）

### 3 題材について

- 本学級の児童は、自分の思いをもって最後まで意欲的に造形活動に取り組む児童が多い。しかし、やりたいことの具体的なイメージが浮かばず、発想するまでに時間がかかってしまい、なかなか活動に入れない児童がいる。また、友だちの発想を真似したり、色々構想を変えたりしていく中で、自分が何を表現したいのか、何をしようとしているのかという本来の目的から離れてしまう児童もいる。表現したいことが明確であっても、それを表現する過程で思い通りに活動が進まずに技能面で困っている児童もいる。鑑賞に関しては、活動の途中で友だちの作品のよさを見付けたり、できあがった作品を褒めたり、自分の作品への思いを友だちに伝えたりと、互いの作品の良さを認め合い、自他の作品を大切にしようとする児童が多い。
- 本題材は、古くから伝わる郷土玩具の一つであり、底におもりを付け、倒れてもすぐに起き上がるようにした揺れる仕組みを生かして動くおもちゃをつくる題材である。児童の実態をふまえ、つくっておしまいではなく、つくったあとに遊ぶ目的があるという見通しや楽しみをもたせることができることや、工夫を重ねること、ていねいさが求められることから本題材を考えた。この題材の面白さは、まず、倒しても倒しても起きあがってくる楽しさにある。また、色々な大きさの筒を用意することで、組み合わせたり、面白い動きを発見したりしながら、表現の意図を明確にして、一人一人の感性を働かせることで、揺れる動きから自分の思い描いたイメージを豊かに構想し、形や色、構成、表現方法など多様な活動が展開されると考えた。
- 指導に当たっては、揺れる仕組みの例をいくつか提示することで、動きの面白さや楽しさ、こんな動きがあるんだという感動的な出会いをさせ表現活動への意欲を高めたい。また、自分の感じ取った発想を大切にしながら、自由に動きを変えたり、組み合わせたり、アイデアスケッチをかかせたりして思いのまま活動できるようにする。できあがった作品で、「来年度入学する園児を迎え入れる交流会で一緒に遊ぼう」と提案することで、児童が相手意識をもって、意欲的に造形活動ができる。活動が進みにくい児童に対しては、試作の時間を十分確保したり、試作を動かしたり、対話したりして、より具体的に自分の表現したいものをイメージさせたい。そして、自分の意志で遊べるものをつくり出す喜びを実感できるよう配慮する。また、紙と筒の接着の仕方や、筒に対しての重りの付け方などを確認しながら活動に入るように支援する。創造的な技能を高める手立てとする。鑑賞では、自分の作品への思いを物語に表し、互いの作品で遊び面白い動きを発見するなかで、友だちの工夫を発見できるようにする。

### 4 題材の目標

- 揺れる仕組みの面白さに気づき、揺れる仕組みを生かしながら、自分なりの表現方法で工夫してつくる。

### 5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	揺れる仕組みを基に、動くものをつくること楽しもうとしている。	揺れる動きの面白さから表現したいことを見付けたり、つくる順序を考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法を選ぶなど表し方を工夫している。	自他の作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などをとらえている。

## 6 指導と評価の計画 (全6 時間)

時間	学習活動	学習活動における具体の評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 (1時間)	・揺れる仕組みを知り、材料と関わり合いながら構想を練る。	イ (アイデアスケッチ)	・揺れる動きの面白さから <u>形や色、構成、表現方法など</u> を見付けたり、つくる順序を考えたりしている。	・自分のつくりたいもののイメージやテーマを聞き、より具体的になるよう対話しながら構想が広がるように支援する。 ・友だちの表現方法や材料の使い方を交流する場を設ける。
第二次 本時2/4 4時間	・自分の思いに合わせて表現活動を行う。	ア (行動観察) (途中作品) ウ (行動観察) (途中作品)	・揺れる仕組みを基に、 <u>様々な方法を試みながら、進んで</u> 楽しもうとしている。 ・自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして <u>効果的に</u> 使ったり <u>組み合わせたり</u> し、表現に適した方法を選ぶなど工夫して表している。	・友だちの表現方法や試みを紹介する場を設ける。 ・材料の選択や表現方法で困っている児童に、対話をしながら支援をする。
第三次 1時間	・物語をつくり、友だちに作品とともに紹介する。つくった作品で遊びながら、鑑賞する。	エ (ワークシート) (発言)	・自他の作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、 <u>友だちの思いに共感しながら</u> 表現の意図や特徴などをとらえている。	・好きな作品を選ばせて、具体的にどこが好きなのか対話しながら聞き出す。

## 7 本時の目標

表したい物語の場面に合うように、表し方を工夫してつくる。

## 8 準備物

- (指導者) 電動ドリル、ペンチ、円柱の筒、電池、鈴、竹串、色画用紙、ダンボール箱、カッターナイフ、両面テープなど  
(児童) おりがみ、セロテープ、木工用ボンド、はさみ、(自分で用意した材料)

## 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準 評価方法
1 本時の学習内容をつかむ。	○ワークシートをもとに、意欲を高め、見通しをもたせる。 ○新1年生のことを考えて心をこめてつくることを意識させる。 ○参考作品から、おもりの付け方、かざりの付け方によって、ゆれる動きが変わることを伝える。	
<b>めあて 表したい物語の場面に合うよう、材料を選び、工夫してつくりよう。</b>		
2 用具の使い方を知る。	○実演して、使い方と安全について知る。 ○材料について確認をする。	
3 アイデアスケッチをもとに、試したり、工夫したりしながら表現活動を行う。	○接着方法や切断方法などで困っている児童には実演をして支援する。 ○揺れる仕組みが理解できず、思うように動かない児童には、参考作品を見せ、おもりの付け方を支援する。 ★材料の選択や表現方法で困っている児童に、対話をしながら思いを聞き一緒に考える。	ア (観察) ウ (観察) (作品)
4 学習のふり返しをする。		